



日足がめっきりと短くなり、朝夕の寒気が身に染みる頃となってまいりました。季節の変わり目となるこの時期には、多くの方が体調を崩されがちです。歯を含めた全身のケアによりお気遣いして、ご自愛下さい。

歯科衛生士法 一部改訂

歯科医師の指導の下で

歯科衛生士による

予防措置が可能に

平成二十六年六月十八日、第百八十六回通常国会の参議院本会議において、「地域における医療および介護の総合的な確保を推進するため関係法律の整備などに関する法律

(以下、「医療介護総合確保推進法」)の一環として、歯科衛生士法の一部改正法案が審議され、可決・成立いたしました。

これによる歯科衛生士法の一部改訂は、平成二十七年四月一日施行となります。

歯科衛生士法の一部改正により、「歯科衛生士とは」で始まる、歯科衛生士の定義が示された項目において、「歯科医師の直接指導の下に」と記さ

れていた箇所が「歯科医師の指導の下に」に改められ、また、「業とする女子をいう」が、「業とする者をいう」へと変更されました。

これにより、「歯科医師との緊密な連携が確保されている」ことが前提で、歯科医師の立ち会いなしでも、歯科衛生士による予防処置を行うことが可能となります。

地域の歯科検診や乳幼児検診において歯科予防処置を行う際、立ち会いの歯科医師を確保することが困難であるという実情に即し、性別に関わらない職であることを改めて提言した、「歯科衛生士の悲願達成」とも言える法改正となりました。

歯科衛生士には、よりいっそうの資質と立場の向上の為、今回の法改正の趣旨を正しく理解しての業務実施が求められます。

歯科衛生士法の改正について

1. 歯科衛生士が予防処置を実施する場合の歯科医師の関与の程度の見直し
 - ・ 歯科衛生士の修業年限が一年から三年と延長され、歯科衛生士の資質向上が図られている
 - ・ 地域治療において予防処置を行う場合、立ち会いの歯科医師確保が困難であるケースが見受けられている。

→ 歯科医師と緊密な連携を確保した上で、歯科医師の直接指導までは要しないこととする。
2. 法の条文中の『女子』の門限の改正

→ 規定中の『女子』を『者』に改め、性別に関わらない職であることを改めた。

片貝
デンタル
クリニック

院長 河内先生が十一月一日で退職いたします。



片貝デンタルクリニック 河内 康之

みなさんこんにちは。

このたび十一月一日いっばいで退職することになりました河内康之です。

千歯会に入職してから約三年半、あっという間でした。

秋庭理事長をはじめ、素晴らしいスタッフの皆さんに恵まれ大変楽しく過ごすことが出来ました。

入職する前はいわゆる個人開業医での経験がなく、どうなるものかと不安でしたが、院長という

役職も経験させていただき歯科医師としても人間

としても成長することができたかなあと感じております。

今後は実家新潟の方で、父の歯科医院を継いでいく予定ですが、千歯会のように地域に密接した歯科医療を患者さんに提供できるよう、日々精進してまいりたいと思います。

短い間でしたが本当にありがとうございました。



片貝デンタルクリニック

山武郡九十九里町片貝
2380
TEL 0475-70-7171
FAX 0475-76-4888

訪問診療部

TEL 0475-76-8201
FAX 0475-71-3472

千歯会 事業所便り

今年のスペシャル
クリーニングはお口の状態
に合わせたメニューをご提
案いたします。

十月～十二月期間限定となっ
ており、プラークチェックから歯石除去、フッ素
やトリートメントまで、審美と予防を兼ねた治
療を患者さんのお口に合わせてセットでご提案
をさせていただきます。予約制となっておりますの
で、詳しくはホームページをご覧ください。お気軽
にお問い合わせ下さい。(伊藤誠)

大網
歯科医院
院内



大網歯科医院

大網白里市みやこ野 2-2-1
TEL 0475-72-6480
FAX 0475-72-8059

訪問診療部

TEL 0475-73-6480
FAX 0475-53-6982

親睦会として、
たこ焼きパーティを開きま
した。色々な具を入れて、
タコ、キムチ、ウィンナー、
なぜかキュウリ……。

スタッフ・ドクターの隔て
なく、楽しく食べまして、
最後にはみんなの顔がたこ
焼きみたいなまん丸のお顔
になりました！（阿南）

おゆみ野
総合歯科
クリニック



おゆみ野 総合歯科クリニック

緑区おゆみ野 4-3-9

TEL 043-300-3939
FAX 043-300-3940



千歯会カルチャー

日頃過ごしている些細な事柄の中に、何か心に留まることがありませんか？

忙しい時の中で見過ごしてしまいがちの思いに目を向けてみました。

街なか寸評

日曜日の午後のスーパーは買い物客で賑やかだった。そんな中でふと子供連れの若夫婦に心惹かれた。

母親は胸に乳飲み子を括り付け、右手に荷物を持ち左手で幼い女の子の手を握っている。

土木業に従事しているらしい父親は買い物を通り乗せた荷車を押し、長男らしい男の子と手を繋いでいた。

子どもたちは好奇心で小さな目を輝かせて周囲を見回していた。

母親がレジに入った途端に、女の子がレジを潜って玩具売場の方へ走っていった。父親が慌てて後を追った。と、走っていた女の子は同じく買い物に訪れた老夫婦に道を遮られて立ち止まった。

咄嗟に老婦人が腰を屈めて、手を差し出してにこにこ女の子に話しかけているようだった。

女の子はビックリして顔を見上げていた。続いて杖をついていた老人も傍へ寄り、女の子の髪を優しく撫でていた。

駆けつけた父親は、恐縮してしきりに何回となく頭を下げていた。

「可愛いお子さんですね」「大変でしょうが頑張ってください」

といった老夫婦の労いに、振り返っては何度も頭を下げ、子どもたちは手を振って帰って行く家族だった。

寸言 ～滋味きく すべき事柄～

一 合力

〈物理的人間学〉

集団は大勢の力で動いている。力を合わせてというのが、**力の合わせ方が問題だ。**

皆同じ方向に目標を合わせられれば集団の力は総和となつて素晴らしい。だが方向がバラバラだと集団の力は著しく低下して変形する。

個々の力の相異よりも、個々の目標への取り組み姿勢が問題なのだ。

(みんなの足を引っ張ってはいけない)

二 抵抗

抵抗とは逆らうことだ。故に、とにかく悪いことのように思いやすい。だが**人間は抵抗を利用して生きている。**

登山・力走・日常の歩行ですら、抵抗なくして不可能である。電熱器、自動車などのブレーキもわかり。摩擦を大きくして抵抗力を生じさせているのである。

水面や油面は摩擦が少ない。摩擦とは擦り合うことであり、擦り合う面が滑らかだと抵抗力が小さいが、ギザギザ凸凹だと大きくなる。

人間社会は常に曲がり道、回り道である。調子に乗って抵抗を見誤りブレーキを忘れると、何時か失敗する。

(抵抗は破壊とは異なり、よりよい物を生み出すきざしにもなる)





ざっと世間を眺めれば

巨人を偲ぶ

「日航」稲森さんと「国保旭中央病院」諸橋さん

先日長崎ハウステンボスへ。十五年ぶりに日航便に乗った。今時、競争激化の業界ならば当然だろうが、その手軽さと便利さには一驚した。それにしても案内係や客室乗務員達の見かけが如何に変わったことか。

元々「日航」は、高度成長気国策会社として華々しく発足した会社であった。中でもスチュワーデス(当時は客室乗務員—キャビンアテンダント—の呼び名はなかった)は容姿端麗、気品を漂わせて乗客を暖かく酔わせる、時代の憧れの的であった。経営も時代の先端を行くエリート企業として、権威と格式に輝いていた。

だが国策会社だということもあってか、政治家が蝸集(※)し、地元への利益誘導も兼ねての赤字路線を乱発し、気がつけば後続の民間航空会社に追い越され、二兆三千億円の大赤字会社に転落していた。そこで再建のために懇請されたのが「京セラ」を築き上げてきた稲森和夫さんだった。

家族や側近は、老齢を理由に大反対だった。だが稲森さんの経営者としての情熱が、無給の社長を引き受けた。

稲森さんは自らの経営体験から、「意識改革による人作りこそが根幹だ」と信念を持っていた。早速連日のように役員や幹部社員やらと会議を持ち、納得のいくまで徹底的に話し合った。自らも言う。夜昼なく、時には会社に寝泊まりもした。——そして日航は立ち直った。

改めて現在の日航を見ると、末端の職員や客室乗務員の仕草や表情に気構えが窺える。乗客の手元、足元への注意深い視線。乗客の行動を隙間なく見逃すまいとする緊張が、どの顔にも笑顔の中にピンと走っている。

接客態度。これに過ぎる信頼はない。商売は信頼の上に成り立つ。稲森さんの偉業を思いながら、他山の石としてしみじみと眺めた。

——となると、私にまた自ら迫ってくる偉人がいる。

全国に誇る、国保旭中央病院を築き上げた、創始者諸橋芳夫先生である。

先生は、史上「河井継之助」「米百俵」で名高い、新潟県長岡市の医家に生まれた。克己勤勉を経て、当時医学界の権威、東大柿沼内科の希望の星として成長された。

だが逼迫した時代は学徒動員令を発し、青年達に勉学を許さなかった。先生は「どうせならば」と郷土の大先輩、山本五十六連合艦隊司令長官の下、海軍軍医として艦上の人となった。

以下、先生の悲壮な告白から——

同期同僚が希望に燃えて艦上勤務となった。だがそのあらかたが敗色漂う戦雲の中で、艦と共に海に沈められた。

偶然の出張離艦が私の命を救った。そして偶然はさらに重なる。

艦を失った私は、広島呉軍港勤務となった。末期的な戦局から東京本部との連絡は

頻繁だった。

忘れもしない昭和二十年八月六日、私は広島駅から東京への列車に乗っていた。のろのろと満員列車が二十分も走ったろうか。突然、経験したことのない轟音と閃光が列車の後部を襲った。

そして、私は生き残った。その後、諸橋先生は柿沼内科へ復帰した。数年後、政治も細々と始まり「国民等しく」といった目標から「国民健康保険法」が成立し、自治体による健康保険病院の設立が急がれた。

特に千葉県は、時の副知事さんが厚生省出身ということもあって、再三、東大柿沼内科を訪れ、医師看護婦の懇請を繰り返していた。

だが当時は医師会や地元が迷惑施設として猛反対で、国民のためとはいえ誰も「火中の栗」を拾う危険に手を貸さなかった。その時使命感より立ち上がられたのが諸橋先生だった。

旭中央病院の資料館を訪れると、「生き長らえた幸運を、同期先輩恩師に代わって」生命も賭けてといった諸橋先生の苦節の営みがひしひしと伝わってくる。

「医師は患者に対する職業です。患者は病気だけでなく種々な不安や悩みを抱えています。病状の急変することもあります。」

だから私の病院では、医師は全員病院の敷地内の宿舎に住み、いつでも患者の元に駆けつけられるようにといったことから、常に患者との間柄を大切にしています。昔から医は仁術とも云います。「仁」あってこそ医者です。算術では本当に良い医者は育ちません。ですから私は経営

と同時に良い医者育てようとして一生懸命に頑張っているつもりです」
この言葉は常に変わらぬ先生の自負でもありました。

晩年には、全国自治体病院や全国病院協会の会長に長く留め置かれ、中国に近代病院の寄贈まで努めたことから勲一等に叙せられた。その際のジョークがまた先生らしい。

「応援団が貰えなかったから家内と衣装を新調して出席したが副賞(賞金)がなかったね。ノーベル賞程ではないにしても文化勲章などにはあるのにと、係官に言ったら困っていた。知事さんに挨拶に寄り、その話をしたら幾ら位欲しいのかと言われたので三億円と言ったら、総務部長が目を白黒させていた。知事さんは大笑いして考えておきますと云ったことで、病院の第三期工事が大いに助かった」

「日月無心照」「医を拓く」といった自伝を戴いてある。

如何に力んでも御陰様人生。だから時には先人の足跡に思いを馳せ、他多銘すべし。

※蝸集……ついで集めること

千歯会便り 165号
2014年11月1日発行



発行元 千歯会
医療法人社団
編集 ウノ